

〈2021 共通テスト現代文の特質予想と対策について〉

作成者 中野芳樹

【特 質】

- ① 現代文は大問二題・約 40 分へと変更
 - ・センター試験の単なる踏襲ではなく、2020 年 1 月に変更・確定された
 - ・第 1 問（論理的文章＋実用的文章）
 - ・第 2 問（小説その他、詩歌・随想・文芸評論などの組み合わせも）
- ② 実用的文章（図表・資料・対談など）単独での出題はない
 - ・「国語総合」の範囲でしか出題されない（小論文入試の図表等とは異なる）
 - ・主たる【（論理的）文章】と【図表・資料的文章・対談等】との組み合わせ
 - ・図表等は論理的文章の具体例や付属資料、サブ資料としての位置づけ
- ③ 平均得点率 50%程度を想定（センター試験は 60%を想定）
 - ・量的・質的に難化の可能性がある → 試行調査の量・質を超えると考える
 - ・センター試験の追試験レベルを想定すること
- ④ 設問タイプの多様化
 - ・傍線部のない設問、複数正解（正答数の指摘がない可能性→正解の組み合わせを選択）、対話と空欄形式、連動型設問（前問の解答と関連する解答を選択させる）、資料付き設問等
 - ・情報処理能力が問われる
 - ・「表現と構成の説明」「表現の説明」は従来通り出題されると考えられる

【対 策】

- ① 評論・随想・小説（メインの文章）の客観的読解法の習得が大前提（基礎学力）
 - ・具体例（引用・比喩）の処理法を、「図表・短めの記事・対談・各種資料」にまで援用すること（対談は随想と同じ読解法でよい。各発言の最終センテンス述部に注意）
 - ・主となる文章中で、図表・資料・他の文章と関連する箇所を意識した読み方、踏まえた解き方を心がける
- ② 設問タイプ別論理的解答法の修得（基礎学力）
- ③ 2016 年度以降のセンター試験過去問題を本試験・追試験ともに解く
- ④ 正解を記述する（少なくとも記述するという姿勢で選択肢を絞る）
- ⑤ 評論（随想）・小説ともに「表現（と構成）の説明」の頻出事項の理解に努める
- ⑥ 文章・資料を読む時間、各種設問を解く時間の配分に配慮し、読解・解答作業のスムーズな進行を目指す（選択肢に振り回されず、各選択肢の構文と KW に着眼して絞り込む。「消去法」に逃げない。正解を書くための必要条件で絞る）
- ⑦ リード文・注・設問文は、出題者からの正解誘導メッセージ（ヒント）なので、落ち着いて情報を読み取る